

No.16 モンティエン・ブンマー 「石鐘の庭」

Montien Boonma

北川フラムさんのコラム / 1996 (平成8) 年 8月 15日付 立川市市報記事より

モンティエン・ブンマーはアジアを代表するタイのアーティストだ。この仕事をお願いした時、彼の奥さんは死の床にあった。内陣と外陣をもった社には白い石が敷き詰められていて、内には黒い御影石が置かれている。

もうひとつの卒塔婆の頭部は黒の御影石がのっている。これらはひとつ 4 キログラムのベル 1300 個によってつくられていて、手でたたけば美しい音ができる。その内部空間へ至るなかで、私たちは厳粛で美しい空間体験を味わうことになる。

モンティエンは東京の立川という都市の将来への希望と、氏の奥さんに対する鎮魂を共にひとつの祈りとしたのではなかったか。実に美しい作品ができあがった。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現 : UR 都市機構) 「ミニ通信」より

私の感覚で言うと、立川再開発プロジェクトの建物(インテリジェント・ビル)は、非常にモダンであり、またビジネス、商業、店舗のためにそこで営まれる生活は、実利主義的な世界のものであると思います。

近年私たちは、物質的要求に応えるために、膨大な物を作っています。私たちは物をたくさん持てば持つほど、逆に、ますます平静な心を失っていると思います。

古代社会には、思索したり、精神を楽しませるための場所が数多くありました。私は、この立川という環境に、人々の心を暖めるための精神的な場所ができることを願っています。

そして私は、美術作品が大衆のものへと向かい、人々の生活とともにあろうとするこの機会に、私に与えられたインテリジェント・ビルとビルの谷間の実利主義的な空間を、精神的な空間へと変えたいと思います。

教会、寺院、モスクのように、私の“ロック・ベル・ガーデン(石鐘の庭)”の周りで、人々が健全な精神に耳を傾けることができるよう願っています。